

学力の把握に関する研究

「ビジネス基礎」における学習の実現状況把握と指導の改善について
～評価が変われば授業が変わり，授業が変われば生徒・教師が変わる～

山口県立岩国商業高等学校 教諭 松本 博己

1. はじめに

平成 18 年度より「学力の把握に関する研究指定校事業」に指定され，新しい学力についてどう把握していくか，2 年間研究を進めてきた。

当初は，学力に対する概念やその学力をどう把握するのか，雲をつかむような状態であった。本稿は，その試行錯誤の過程を発表するものである。研究については，科目「ビジネス基礎」における「経済生活とビジネスの発展」について，学習の実現状況把握と指導の改善を中心に実践及び考察を進めた。

2. 調査研究のねらい

教科「商業」における基礎・基本科目である「ビジネス基礎」の充実を図ることにより生徒自身が望ましい進路実現が出来ることをねらいとしている。そのためには，生徒の能力を伸ばす評価が大切だと考える。

また，我が国におけるビジネスの発展について戦後からの歴史をひもとき，国際化，情報化，サービス経済化，科学技術の進展等の観点から，経済環境の変化，地域環境問題や課題等，その重要性について評価の工夫をとおして，学習指導の実現状況を把握し，指導と評価の充実を図る。

研究の柱は，次の 4 点である。

- (1) 「経済生活とビジネス」について，評価方法の工夫により，ビジネス教育の素晴らしさを感じることのできる授業実践
- (2) 生徒を伸ばす評価方法の研究（ポートフォリオ評価を絡めた観点別評価）
- (3) 授業・考査テストの変容
- (4) 評価規準に照らした教材作成

また実践的な評価方法でなければ，研究の意味をなさないと考え，「わかりやすい」，「使える」をコンセプトとして付け加えた。

【調査研究の対象】

第 1 学年 科目名「ビジネス基礎」

分野(領域)	内容項目	具体の単元(題材)	評価の観点
○分野 教科 「商業」	1 商業とは	ア 商業とは	知識・理解 関心・意欲・ 態度 思考・判断 技能・表現 関心・意欲・ 態度
		イ 商業高校生として	
		ウ 意識調査	
	2 商業の学 習ガイダ ンス	ア ビジネスの世界とは	知識・理解 関心・意欲・ 態度 関心・意欲・ 態度 関心・意欲・ 態度
		イ 岩国商業の総合ビジネス 科、国際情報科につ いて	
		ウ 商業科目の内容について	
	3 売買に関 する計算	ア 電卓の操作について	関心・意欲・ 態度 技能・表現 技能・表現 技能・表現
イ 数字の書き方			
ウ 売買計算			
4 売買取引 と代金決 済	ア 売買取引の手順	知識・理解 技能・表現 知識・理解 知識・理解	
	イ 代金決済の方法を 知ろう		
5 職業を知 ろう	ア 自分を知る	思考・判断 関心・意欲・ 態度 関心・意欲・ 態度 思考・判断 知識・理解	
	イ 様々な職業を調べる		
	ウ 職種別説明会		
6 戦後ビジ ネスの発 展につい て(1)	ア 戦後ビジネスの発展に ついて、国際化、情 報化、サービス経済化 科学技術の進展等の観 点から、経済環境の変 化、地球環境問題や課 題等、ビジネスがどう かわっているかその 重要性について	知識・理解 関心・意欲・ 態度 思考・判断 技能・表現	
	イ 一つの分野、商品を目 材として、調査・研究 を行い、簡易レポート 作成		
7 資格につ いて調べ よう	ア 検定の種類について	知識・理解 知識・理解 思考・判断	
	イ 検定の意義について 取得計画		

(次ページへつづく)

(前ページからのつづき)

分野(領域)	内容項目	具体的単元(題材)	評価の観点
○分野 教科 「商業」	8 経済活動と流通	ア 経済活動のなかの流通	関心・意欲・態度 知識・理解
		イ こんにちの流通	知識・理解
	9 流通活動の特徴	ア 流通の働き	知識・理解
		イ 流通の仕組み	知識・理解
ウ 環境の変化と流通		知識・理解	
10 流通活動と企業	ア 流通の担い手である企業	関心・意欲・態度 知識・理解	
	イ 企業の経営組織	知識・理解	
	ウ 企業活動とマーケティング	関心・意欲・態度 思考・判断 技能・表現 知識・理解	
11 ビジネスの担当者	ア 生産者のビジネスを知ろう	関心・意欲・態度 知識・理解	
	イ 売買業者のビジネスを知ろう	知識・理解	
	ウ 物流業者のビジネスを知ろう	知識・理解	
	エ 金融業者のビジネスを知ろう	知識・理解	
	オ 保険業者のビジネスを知ろう	思考・判断 技能・表現	
	カ 情報・通信業者のビジネスを知ろう	思考・判断 知識・理解	
	キ サービス業者のビジネスを知ろう	思考・判断	
12 戦後ビジネスの発展について(2)	ア 1学期に作成したレポート内容を見直し、班別によるテキスト及び個人によるレポート作成	関心・意欲・態度 思考・判断 技能・表現	
	13 戦後ビジネスの発展について(3)	ア 作成したテキストをもとにプレゼンテーションを行う イ プレゼンテーションの評価をもとに3回目の見直しをはかる	技能・表現 思考・判断 知識・理解 関心・意欲・態度
14 外国人とのコミュニケーション	ア 異文化とのコミュニケーション	関心・意欲・態度 知識・理解	
	イ コミュニケーションをとってみよう	関心・意欲・態度 思考・判断 技能・表現	

3. 児童生徒の学習の実現状況と考察

(1) 「経済生活とビジネスの発展」に関する学習の実現状況

2 [調査研究のねらい] でも記述したように戦後日本における社会の発展にビジネスがどのように関わり寄与してきたか、特定の商品を通じて、ビジネスの重要性について理解させ、今後の学習に関心を

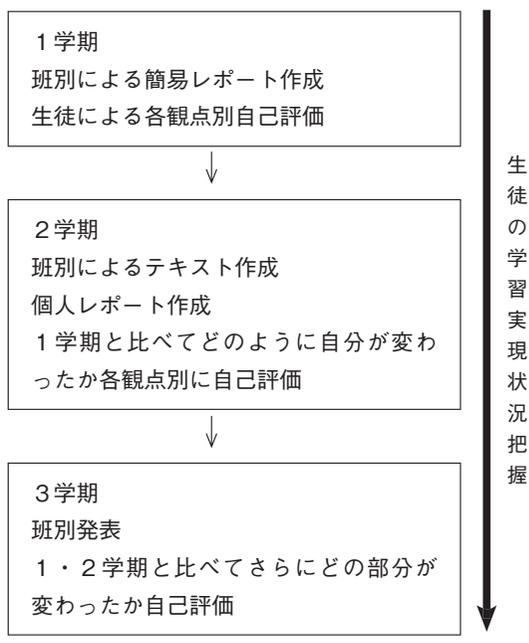
持たせることにより、学習を通して思考・判断、技能・表現等の生きる力を養わせることを目的として授業実践を行った。

まずは経済生活とビジネスの発展について一通り学習した後、興味ある商品を題材として、調査研究及び研究発表を行うこととした。レポートは、班別で作成する「テキスト作り」と「個人レポート」の2種類を課した。

平成18年度はただ学習単元だけで終わるのではなく、年間を通して学期ごとに自分達がどう成長したか、評価を通して確認する方法の検討が課題として残っていた。

そこで平成19年度は、年度内に同じ内容の研究を1学期、2学期、3学期と繰り返し行うことにより、ポートフォリオ評価を通じて自分たちがどのように変わったかを確認させることにした。

〔戦後ビジネスの発展について〕



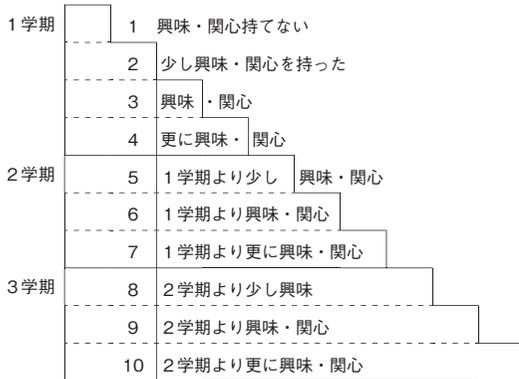
同じテーマを繰り返し研究することで、研究内容が深くなり、また新たな課題に直面することにより、生徒達の視野はさらに広がっていった。このことを実感させるには、ポートフォリオによる自己評価が適している。また、ただ自分の記録を書き込ませるだけでは効果が薄いため、教員が生徒自身に自分がどのように変わっていったか、観点別評価項目にそって適切な説明及びアドバイスを行うことが大切となる。

〔3学期段階の学習到達度〕

経済生活とビジネスの発展

～各観点項目毎の到達度(一部抜粋)～

1学期は4段階まで、2学期は1学期と比較するかたちで7段階まで、3学期は2学期と比較するかたちで10段階を上限として、自己評価を行わせた。(到達基準例)



到達度平均 (到達度10段階を基準・一部抜粋)

(関心・意欲・態度)

- ・興味・関心をもって意欲的に授業にのぞんでいる。

1学期到達度	2学期到達度	3学期到達度
3.4	5.9	8.8

(思考・判断)

- ・調査した資料を基に、客観的に内容をまとめている。

1学期到達度	2学期到達度	3学期到達度
3.0	5.3	8.0

(技能・表現)

- ・内容をわかりやすくまとめ記述している。

1学期到達度	2学期到達度	3学期到達度
2.9	5.7	8.3

(知識・理解)

- ・ビジネスの役割・重要性が理解できた。

1学期到達度	2学期到達度	3学期到達度
2.9	5.4	8.3

(2) 思考・判断を養う資料集の作成

「経済生活とビジネスの発展」について、生徒の思考・判断を養うため、国際化、情報化、サービス経済化、科学技術の進展、経済環境の変化、地域環境問題等の観点から、各項目ごとに商業科教員が資料作成を行った。

この教員作成資料には、思考・判断を養わせる発問を載せている。教科書の内容から発展し、興味・

関心を持たせ、問いかけに対して自ら解決する力を引き出すことを目的としている。

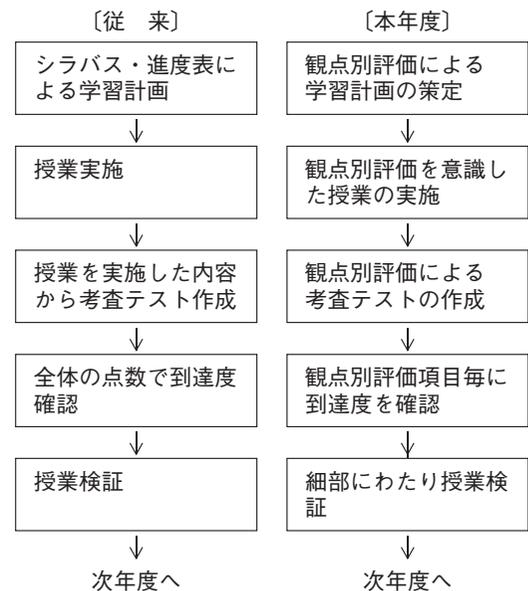
(3) 考查テスト(観点別評価項目から作成)からみる実現状況について

従来、授業で学習させたことを中心に考查テスト作成していたのだが、今回評価の観点を中心に据えて考查テストを作成した。

従来のテスト作成では、「思考・判断」に関する出題が少なく、また評価も難しいという問題点があった。また、どうしても「知識・理解」、「技能・表現」を問う問題が中心となりがちであった。観点別評価中心の考查テスト作成にあたり、次の点について注意を払った。

- ・学習計画により評価の観点を確認
- ・評価の観点を確認しながら授業を実施
- ・評価の観点に沿った考查テスト作成
- ・特に「思考・判断」に関する評価については、担当者間で基準を共通理解しておくこと
- ・考查テストの結果から学習到達度がわかるようにし、次回の反省材料とする

〔考查テストの流れ〕



考查テストを観点別評価項目から作成するには、評価の観点をあらかじめしっかりと認識して授業を行わなければならない。いつのまにか授業内容が、知識・理解中心型の授業から知識・理解をベースとして、思考・判断、関心・意欲・態度などを身に付けさせるものになっていったと感じた。

[2学期中間考査結果よりみる学習到達度]

(テスト問題一部抜粋)

到達度の判定基準

- A 到達している B 概ね到達している
C やや到達に足りない D 到達していない

・企業形態について (知識・理解)

A	40.0%	B	25.0%	C	25.0%	D	10.0%
---	-------	---	-------	---	-------	---	-------

・会社を起業するとしたらどの企業形態をとるか
(関心・意欲・態度)

A	70.0%	B	22.5%	C	2.5%	D	5.0%
---	-------	---	-------	---	------	---	------

・チェーン化の方式を図説 (技能・表現)

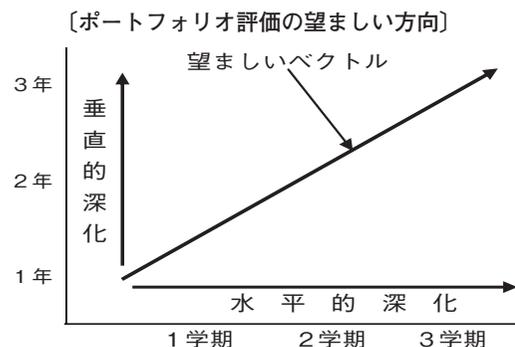
A	56.3%	B	23.7%	C	10.0%	D	10.0%
---	-------	---	-------	---	-------	---	-------

・卸売業者の役割説明 (思考・判断)

A	41.3%	B	33.7%	C	8.8%	D	16.2%
---	-------	---	-------	---	------	---	-------

(4) 水平的深化と垂直的深化(体系化の問題)

ポートフォリオ評価の利用により、学期ごとに同じテーマを研究することで各観点ごとの学力の伸びを計ることができた。ただしこれは、あくまでも1年間だけの水平的な深化にとどまるものである。1年間だけの評価を見るのではなく、学年ごとに生徒自身が成長していく垂直的深化のための体系化づくりが大切となる。また、ポートフォリオ評価は進路指導にも適しており、この評価体系を進路指導と連携させることにより、望ましい進路実現へと生徒を導くことができるのではないだろうか。



4. 評価方法に関する研究成果

(1) ポートフォリオ評価の利用

生徒の自己評価には、ポートフォリオ評価を活用した。ポートフォリオとは、生徒自身の「成長ファイル」のことをいう。この評価方法を従来研究がなされている観点別評価規準に照らして項目立てし、主に生徒自身の学習実現状況把握の評価方法として採用した。

生徒達には単元を学習する前の状態と後の状態で、どの部分が変わるようになったか確認させた。この結果から生徒自身何に興味を持ち、何を理解し、何が出来るようになったか実感できたようである。また教員にとっても、自身の授業評価につながり、授業における生徒の実態と教員の認識との差を埋めることができるようになった。

(2) 最適な評価方法のミックス

教科「ビジネス基礎」においては、問題解決学習が中心となる「課題研究」や「総合的な学習の時間」とは違い、「知識・理解」や「技能・表現」などを問うペーパーテストが必要となる。今回、観点別評価に基づく考査テストを作成した。実現状況などは上述のとおりである。生徒達が抱える問題には、「知識・理解」のうえにたつて「思考・判断」しなければならないものも多いはずである。「知識・理解」や「技能・表現」を問うペーパーテストも重要な評価方法の一つである。それぞれの単元にあった評価方法を組み合わせることが大切となる。

5. おわりに

今回、「評価が生徒を成長させる。」をコンセプトに研究を進めてきた。

人が生きていくためには、あらゆることに対して知識や技能を持たなければならない。また問題解決のためには思考力・判断力が必要となる。そして、人と人の間に生きる人間は、自分の意思を相手に伝える表現力を持ち合わせなければならない。これらの原動力が意欲である。これが、「生きる力」であると考える。「学力」とは、自ら学び、自ら考え、自ら解決する力である。この学力を身に付けさせるためには、学ぶ意欲を教員がどう引き出すかが重要となる。評価方法の研究をとおして、「評価が変われば授業が変わり、授業が変われば生徒・教師が変わる。」ということを学んだ。校内できちんとした評価の基準と体系化がなされ、教員間での共通理解があれば、生徒に確かな学力を身につけさせることができるはずである。今後も研鑽に励みたい。